



能登半島地震に遭われ被災された方々、大切な方を亡くされた方々に、心よりお見舞いとお悔みを申し上げます。厳冬の中で不自由と不安を抱えて避難生活を送っている皆さまに、心身のケアなど十分な支援が届けられることを切に願います。

誰一人取り残されることなく、人権が守られる平和な社会を目指し、町田・生活者ネットワークメンバー一同、活動を続けてまいります。今年一年、皆さまのご健康とご活躍を心よりお祈りいたします。

12月議会 笹倉みどりの一般質問より

野津田公園の希少な生態系を壊さないで！

野津田公園には雑木林と豊かな草地が広がり、湿生植物園には希少な多様な生態系が残されています。その一方でスポーツ公園としての整備も進められており、「湿性植物園」の一部を「スケートパーク」とするという計画も、その一つです。

湿生植物園について、ある専門家は「生物生存のポテンシャルが多くとても貴重。捕食者のクモ類が多く、それを支える健全な生態系があり、全体として多様な生物が維持されている。スケートパーク整備で池の部分のみを残してもあまり意味はなく、現状の範囲全体を残す必要がある」といっています。

昨年夏に市が実施した自然環境調査の報告書には、植物・昆虫類・クモ類・鳥類に希少種がいくつか確認され、現状を維持することが望ましいとの見解が述べられています。

私は「スケートパーク」建設には賛成ですが、湿生植物園が適地とは思えません。整備計画を見直すべきではないかと質問をしましたが、残念ながら市の答弁は、「整備スケジュールを変更することは想定していない」というものでした。



▲野津田公園湿生植物園

また、ゼルビアのJ1昇格に伴い急ぎよ、11月の臨時議会で「上の原広場」に大型バスの転回・待機場を整備する計画が出されました。ここは、かつての市の考えでは、「南入り口広場は草地的整備を基本とし、現地形を保全しながら『生態系の連続性』を確保する。南入り口は歩行者のための道路とする」となっていました。一部を残しても、それ以外をコンクリートで覆ってしまえば『生態系の連続性』が失われてしまいます。

しかし今、2014年策定の整備基本計画を見直す姿勢は全く見られません。計画ありきではなく、今だからこそ『生物多様性』の重要性を改めて認識し、10年前の計画を見直してほしいと求めました。

人工芝がマイクロプラスチック汚染の発生源に!?

マイクロプラスチックによる海洋汚染が問題になっていますが、その発生源として「人工芝」が大きな割合を占めていることが明らかになり、各地で取り組みが始まっています。

大阪府は2022年に実態調査を実施。人工芝片や充填剤が施設外へ流出し、大阪湾に人工芝由来のマイクロプラスチックが確認されたことから、「人工芝施設におけるマイクロプラスチック流出抑制に関するガイドライン」を作成しました。

多摩市でも2022年から、人工芝メーカーや関係者と連携して、テニスコートの砂入り人工芝から

発生するマイクロプラスチック流出抑制の取り組みを始めました。

町田市ではグラウンド2施設、テニスコート8施設、中学校のテニスコート1施設に人工芝を使用しています。その内のグラウンド1施設、テニスコート1施設、中学校のテニスコートが張替目安の10年を経過しています。

まずは人工芝片の流出実態調査をするよう求めましたが、市は「他市の取組を参考に研究してまいります」との答弁でした。

人工芝と天然芝の10年間のランニングコストを質問したところ、「人工芝は約3億1,400万円、天然芝は約2億3,000万円と、天然

芝の方が安いですが、養生のために限られた期間しか使用できない」とのことでした。

張替の際はコスト面、安全性を考慮し、より環境負荷の少ない選択をすべきと考えます。



◀側溝に流れ込む人工芝の破片

市政に対して、皆さんからのご質問、ご要望をお待ちしています。お気軽にご連絡ください。

TEL 042-729-2296 FAX 042-721-9131
e-mail machida@seikatsusha.net

🔍 笹倉みどり



<https://sasakura.seikatsusha.me>